

授業科目		教育課程ナンバー		時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
健康論		BNNSB1L01		20101	1前	1(30)	必修
担当教員	森田 婦美子		実務歴	有	助産師として病院勤務17年 助産院院長として4年		
概要	人間は環境との関わりの中で生きており、環境が健康に大きく関与している。環境に与えた影響が人間の能力を超えると心身に影響を与え、健康障害がおこり、また、便利さや快適さを求めた結果、多くの健康被害を生み出している。本講義では自分たちの身の回りの環境に焦点をあて、環境を意識し健康観を培うことにある。看護の視点から環境について考える事ができ、自らも健康に生きるために個人やグループで課題に取り組み、健康とは何かについて探究することを目指す。						
学修目標	1) 健康の定義やその特徴を説明できる。 2) 健康に影響する要因を説明できる。 3) 健康がつくられるものであることを理解できる。 4) 健康に関わる専門職である看護職の使命と役割について考えることができる。						
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力		
	科学的論理的思考力		全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護		
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践		
回	学修内容				予習・復習内容		
1	健康論を学ぶ意義						
2	健康とは何か—健康と基本的人権				授業終了時の学び・課題を作成する		
3	健康の条件①—内部環境と外部環境				授業終了時の学び・課題を作成する		
4	健康の条件②—睡眠と健康				授業終了時の学び・課題を作成する		
5	健康の条件③—生殖機能に影響する因子				授業終了時の学び・課題を作成する		
6	健康の条件④—子どもに与える環境因子				授業終了時の学び・課題を作成する		
7	健康の条件⑤—こころの健康 育てられるこころ				授業終了時の学び・課題を作成する		
8	環境と健康①—グループの課題を明確にする				文献検索方法の確認をする		
9	環境と健康②—文献検索				不足している文献の検索をする(グループ間)		
10	環境と健康③—文献検討				不足している文献の検討をする(グループ間)		
11	環境と健康④—パワーポイントの作成				パワーポイントを完成させる(グループ間)		
12	環境と健康⑤—発表原稿の作成				各グループ発表練習(グループ間)		
13	健康の維持・回復—発表①						
14	健康の維持・回復—発表②						
15	まとめ—健康を守る看護 看護観をまとめる—						
使用テキスト	なし						
参考図書	①フローレンス・ナイチンゲール(2003)『看護小論集—健康とは病気とは看護とは—』(薄井坦子・小玉香津子訳)現代社。 ②環境省 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)						
成績評価基準	* 定期試験 70%、発表への取り組み 30%						